

種子植物班と外来有害植物の除去

古田多美枝*

The activity of the seed plant squad and the removal of the foreign harmful plant

Tamie Yoshida *

1 はじめに

種子植物班では川崎市における種子植物の植物相の究明を目的に、市内に生育する野生植物の採集、植物標本の作製、登録、収蔵を主とした作業としている。

さらに青少年科学館の2011年の改築に伴う収蔵庫の移転のため、収納済み植物標本を一時、外部に移動したことによる標本の収めなおしも大きな作業である。これらの作業は班員が各分野に分れて行っている。

生田緑地を対象とした活動には、あらかじめ定めたルートを、ルート毎の担当者に分け、月に一度、草本植物の開花結実を記録するモニタリング調査がある。この調査は班員全体で取り組んでいる。

このほか植物班の有志による生田緑地の植物観察会を毎月第一日曜日に実施している。この観察会は、一般参加者を対象としている自由参加の観察会であるが、リピーターも多く、初参加者にも人気のある大切な事業である。

年間を通して生田緑地内を歩く機会が多いなかで外来有害植物の増加が目立つようになり、在来植物の生育を妨げているのが見られるようになった。そこで、活動の合間を見て外来有害植物を植物班で除去することにした。

除去に際しては以下の条件を考慮して対象とする種を決定した。

2 除去対象の条件

- (1) 最近増えだした外来植物であること
- (2) 根の断片が独立した植物体になり得ること
- (3) 繁殖力が強い
- (4) 種子の生産量が多い
- (5) 根が強く抜きにくい
- (6) 悪条件に良く耐える
- (7) 多年草であること
- (8) 一面に繁茂して他の植物を排除している

上記条件を中心に該当する植物を選定した結果、当面下記の5種を除去対象に選定した。

- (1) メリケンカルカヤ
- (2) アレチヌスビトハギ
- (3) セイタカアワダチソウ
- (4) シラユキゲシ
- (5) セリバヒエンソウ

3 各植物の詳細

(1) メリケンカルカヤ イネ科



北アメリカ原産の多年草。高さ50~100cm。乾燥に強いが湿潤な土地にも適応できる。空き地・土手・市街地の芝生・果樹園などに群生する。種子は綿毛で飛散するため分布域を拡大しやすい。放置すると株は大きくなり叢生する。根は強靱で引き抜くのに困難を伴う。

生田緑地では中央広場の整備により急増した。近年徐々に生育地を広げている。刈り取っても翌年は株が大きくなるため、対策としては一年目の根の張らない個体を見つけて抜き去るのが有効である。対処は急を要する。

(2) アレチヌスビトハギ マメ科





北アメリカ原産の多年草。高さ 50~100cm。乾燥に強いが湿潤な土地にも良く適応する。空き地・草地・路傍・湿地に生える。在来のヌスビトハギに似るが、花は紅紫色で長さ 7~9mm ヌスビトハギ(長さ 3~4mm)より大きく派手である。果実は 4~6 節にくびれ(ヌスビトハギは 2 節)熟せば 1 節毎に分れて落下する。扁平な果実の表面には鉤状の毛と粘性があり動物に付着して散布される。

根は成長と共に強くなり、簡単には抜けなくなるため幼植物の段階で抜き去るのが理想であるが、在来種のヌスビトハギと良く似ているため、幼苗での見分けは難しい。

町田市の野津田公園内にある湿生植物園では、花が美しいという理由で、公園整備業者が保護しているため湿地の 60%以上に群生している。その結果本来の湿地性の植物が枯死寸前の状態となっている。

生田緑地での生育地は現在中央広場とその周辺に限られているが、動物散布という種子の散布形態から警戒を要する。

(3) セイタカアワダチソウ キク科



北アメリカ原産の多年草。高さ 1~2m。河川敷・空き地・土手・線路や道路の脇などに群生する。乾燥にも湿潤

にも強く、地下茎を四方に伸ばして繁殖するため放置すると大群落を形成する。

場所によっては、近年繁殖し過ぎた群落が衰退しているように思われる。これは必要な肥料分が足りなくなったことと、植物体自身が出す毒素によるものだと考えられている。農作物の連作障害にあたる嫌地現象であろう。

花序が大型で、頭花の数が多いため種子の生産量は大きい。種子は冠毛を持つため、風により散布するのであらゆる場所に飛散する。

生田緑地における繁殖状況は、湿地の一部に群生が見られる。これは、水田ビオトープ班が対処している。一方、林縁・草地・道路斜面などには点在しているが、まだ群生というまでにはいたっていない。これは除去作業とは別に、見つけ次第抜くように心がけている。これが繁殖を抑えている要因とも考えられる。ただし抜いたときに地下茎が残ると、その先端に幼苗が出来るため油断は禁物である。セイタカアワダチソウもこまめに抜くのが最善と考えられる。

(4) シラユキゲシ ケシ科



中国(長江以南)原産の多年草。高さ 20~40cm。花は白色の 4 弁花で径 3~4cm あり、美しいため観賞用として売られている。生田緑地では外部から持ち込まれたものが繁殖したと考えられる。

排水の良い半日影を好むが、湿潤にも良く耐え、日影でも盛んに繁殖する。葉は単葉で径 6~8cm と大きく、長い茎があり多数が根生するため地表を覆い他の植物が生えにくくなる。地中に伸びる根茎は長く、水分に富み、柔らかく、非常に切れやすい。根茎は切断により新しい植物体を形成する。生田緑地では、根茎を掘り取るには危険を伴う急斜面に繁殖している個体が多く、根絶は難しい。

(5) セリバヒエンソウ キンポウゲ科



中国原産の一年草。明るい林間や草地に生える。高さ 16～40cm。萼は花弁状で長さ 1～2cm、淡い紫色、稀に白色。葉は 2～3 回羽状に深裂、小葉はさらに細裂。果実は 1 花に 2～3 個付き、種子は径 2mm ほどの、螺旋状で翼のある多数の種子をはじき飛ばす。

多年草ではないが、種子散布による繁殖力は大きく、生田緑地では部分的に周辺を埋め尽くしている。花の無い季節には、葉のみではヤブニンジン・ヤブジラミ・ムラサキケマンなどとみわけ難く、花を付けて初めて気づく。

種子が散布される前に除去するのは難しいが、他の植物の生育を脅かすため、見分けが付くようになり次第除去するよう心がけている。

(6) その他注意を要すると考えられる植物

イ. ワルナスビ ナス科

北アメリカ原産の鋭い刺を持つ多年生植物。除去にあたって設定した条件の 1. ～6. を満たしているが、生田緑地では生育場所が限定していること、個体数がごく少ないこと、観察会の教材用に、悪い例の見本として必要であるなどの諸事情により現時点では、除去の対象としていないが、放置はできない植物である。

ロ. ニワウルシ ニガキ科

中国原産の落葉高木。雌雄異株。公園樹や街路樹として植栽される。成長が早く樹高は 10m に達する。

果実は多数生産し大きな翼を持つ。風に乗って遠方まで飛ぶため、道路の中央分離帯・空き地・河川敷など至るところで実生樹を見かける。

生田緑地にも尾根の一部に植えられているものの種子が飛んで林内・池の縁・路傍などで芽を出し、すでに成長した個体は果実を付け始めている。

幼苗は見かけると抜くか切り取っているが、丈夫であるため切り口からヒコバエが出てくる。早急に対応を考える必要のある植物と考えられる。

生田緑地の「奥の池」の縁に生えたものは池の縁を崩す恐れがある。

4 除去作業の問題点

(1) 除去作業を植物班の活動に組み込むことにより、植

物班本来の活動時間が減少してしまう。

- (2) 班員の減少と高齢化。(予定範囲の作業するためには人手が足りない)
- (3) 設定した日の天候の悪化
- (4) 公園内のため勝手に作業できない。(市側の許可が必要)などの問題点を抱えながら、可能な範囲で除去作業を続けている。